MMQCニュース

Vol.168

令和5年12月1日（金）

発行：(有)エー・エム・アイ

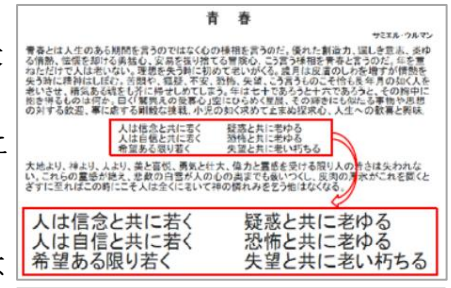
経営者の視座を高めましょう。

先月、弊社のお客様で経営指針書の発表会を兼ねた懇親会がありました。「視座」を高めるとおっしゃっていましたが一段グレードアップを実感しました。「視座」を変えると違った展望になりますので重要な事と理解しています。　　栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」

右上は5年前（2018年2月号）に掲載したサミュエル・ウルマンの「青春」の詩から「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」と公式化した物、右下は広島の故木原先生から教わった故事格言です。それから5年10カ月経過しました。当時は68才で70才が目前という状況で、「70は得ること多し」に近づいていました。しかし、加齢による体力の低下を感じており、サミュエル・ウルマンの「青春」の詩から「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」と公式化していました。


青　春

サミエル・ウルマン

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、強靭を却ける勇気心、安易を強い捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神は萎む。苦悩や、恐怖や、不安、失望、年は、こう言うものこそ年月を地に埋め、生命を塵埃に還元する。

人は信念と共に若く　疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く　恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く　失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜悲、勇気と巨大、偉力と霊感を受ける限り人の青さは失われない。これらの霊感が絶え、悲観の白雪が人の心の奥までも厚くつもし、皮肉の氷がこれを蔽くとさすに至れば この時にこそ人は全くにおいて神の憐れみを乞う他はなくなる。

人は信念と共に若く　疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く　恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く　失望と共に老い朽ちる

人生、百歳は古来稀なり　九十は奇とするに足る無し
八十は大いに為すべし　七十は得ること多し

当時の私は「信念」と「自信」は問題ない状態ですが「希望」の面では少し不安な要素がありました。「希望」を分解すると「希」と「望」で「希」は「めったにない、まれ」と「のぞむ、こいねがう」の2つの意味を持っています。そして、「望」は「はるかを展望する」ように現実でないものを手に入れようとする意味合いがあります。合わせると「まれなことをこいねがい、手に入れようとする」となります。この視点から見れば、故事格言がしっくりします。「人生百年時代」と言われていますが、私自身「百歳現役」を標榜しています。これは仕事の延長線上ですが、重要なことで「希望」なのです。

しかし、平成28年（2016年）の健康診断の胸部X線検査で「大動脈瘤の疑い」と診断されて、少し運命が変わったのです。当時は66才でしたが、自宅と事務所のローン返済が終わっていましたが、妻に先立たれていました。平成20年に中小企業家同友会に再入会して、若い人に刺激を頂いてダイエットに励み94kgから72kgに減量に成功していましたが、肥満のツケで高血圧だったのです。その結果、大動脈瘤になっていたので

人間万事塞翁が馬

すが気がつかずにいたのです。かかりつけ医でCT検査をしたら大動脈が直径54ミリなので手術基準の55ミリ寸前という事で専門の大阪警察病院を紹介されたのです。そこでは、52ミリだが手術基準は50ミリと言われて少し腑に落ちない状態で経過観察となったのです。その後、半年間隔で検査を受け変化がなかったのです。ところが、6年経過した昨年8月の検査で4人目の担当医が「年々、大きくなっている」と言って手術を渋ると半年ではなく1ヵ月後に再検診と言ったのです。この話を行きつけの喫茶店で話すと知り合いの女性が「天の声」と言ったのです。

この一言で気分が変わって、「そう言えば、73才やし、年々衰えを実感する」と思い「手術するなら少しでも若いうち」と決断したのです。そして、去年10月に手術して人工血管とステントで補強という1日半の大手術を受けたのです。入院は2週間でしたが、体力の衰えが顕著で最初は歩けないほどでした。そして、しばらくして手に薬疹が出始めて、皮膚科の塗り薬で抑えていたのですが、地元のかかりつけ医に移管する5月に急な猛暑で体力のバランスが崩れて薬疹が特に手足で酷くなったのです。大阪警察病院からの地元への紹介状にも薬疹を記載していました。しかし、かかりつけ医は外科専門で皮膚科の知識が少なく、とりあえず塗り薬状態だったのです。

7月に風邪を引き、発熱が治まってから内科の先生に見てもらったら、一種のアレルギーだからアレルギーの薬とキツイ目の塗り薬が処方されて、一挙に腫れもとれて、やっと回復に向かったのです。「さすが、内科の先生」と思ったのです。今は、薬疹も収まり、本当の意味で「80は大いに為すべし」に再スタートを切っています。大きな希望はないですが「百歳現役」の為に「運動」x「食事」x「社会」→「健康」を実践しています。

ワンポイント・アドバイス

「人間万事塞翁が馬」を書いています。人間は「じんかん」とも読み世間という事です。悪い事が起きても知らない処から良い事がやって来るという意味。大手術を受け、その副作用で薬疹に悩まされましたが、内科の先生に出会い解決したという身近な話です。このような類はいろいろとありますが、旨い話には用心すべき年齢になっています。

「未来」へ確かな「変革」・・AMIの使命　〒545-0001　大阪市阿倍野区天王寺町北1丁目8番47号411号室
有限会社エー・エム・アイ　電話：06（6713）4161、Fax：06（6713）4162　担当：栩野（とちの）